建設工業新聞　平成27年9月15日(火)　掲載

IPH工法などに理解深める

コンクリート診断士会がセミナー

会員35人が参加した技術セミナー＝12日

富山県コンクリート診断士会（安川榮志会長）は12日、富山市水橋中村の富山県生コンクリート工業組合技術センターで、「第17回技術セミナー」を開催した。

この日は会員35人が参加。コンクリート構造物における長寿命化対策の新技術として注目が集まっている、IPH工法の概要や効果などに理解を深めた。

セミナーではまず、一般社団法人IPH工法協会代表理事で、SGエンジニアリング代表取締役の加川順一氏が、「コンクリート構造物の長寿命化に向けて」をテーマに、IPH工法（IPHシステム）内圧充填接合補強工法の開発経緯とその有効性を紹介。

加川氏は「人間が造ったもので、人間が死ぬことがないよう、安全なまちづくり、特にコンクリート構造物、ライフラインの健全化などを研究してきた」と述べた。さらに、コンクリートの劣化メカニズムを解説した上で、「鉄筋を守ることが課題」と指摘し、IPH工法の開発経緯、実験結果を説明するとともに、同工法の評価として、「コンクリート躯体を内部から接合補強し、内部鉄筋の付着が高まることで、設計数値以上に耐力を回復させる。内部に樹脂を充填することで、防錆効果が得られ、さらに高い止水効果も期待できる」などと解説。

また、「施工後は中性化や発錆、アル骨反応の進行を抑制ではなく停止させる。今年に入ってからは、150％の強度増強が定量的に発現するメカニズムも発表した。コンクリート構造物における今後の長寿命化対策として最適な工法である」と強調した。

引き続き、野村昌弘の研究所の野村昌弘氏が、「蛍光樹脂含浸によるコンクリート劣化診断の紹介」、宇部興産建設資材カンパニー名古屋建材支店の清水英世氏と中島哲治氏が、「U－グラウトスラリー供給システムおよびUBEの断面修復材」、アイペック調査診断部の細野恭成氏が、「調査・計測技術の紹介」をテーマに、それぞれポイントを説明した。